

一般シンポジウム S32

天然物パワー5：『生物現象を制御する天然分子』

Natural Product Power Symposium: Natural Products That Control Biological Phenomena

石橋 正己¹, 塚本 佐知子²

¹千葉大院薬, ²熊本大院薬

地球上のあらゆる生物は、自らの生存や種の存続のため二次代謝産物を利用し生命を維持してきた。一方、太古より人類は、天然資源を食品、衣類繊維、染料色素、香料、狩猟用毒などに利用し、さらに近年では、医薬品、動物治療薬、農薬、魚介類養殖の抗生物質、そして機能性食品としても利用している。このように天然物は人類の生活に必須の存在であり、天然物化学研究の領域は極めて広範である。

さて、世話人らはこれまで4回の「天然物パワーシンポジウム」をシリーズとして開催してきた。これまで、(1)「ものとり、合成、機能解明」(2008年、横浜)、(2)「ものとり醜態味」(2010年、岡山)、(3)「自然に学ぶ」(2012年、札幌)、(4)「海外学術調査と天然物化学」(2014年、東京)といったテーマをとりあげ、実り多い討論が行われてきた。今回の第5回目のシンポジウムでは、「生物現象を制御する天然分子」に焦点をあてる。天然物(二次代謝産物)は未解明の生物現象に必須の役割を果たしていることが明らかとなってきている。今回の4名のシンポジストは、生物現象の解明、生物活性物質の探索、全合成の研究という天然物化学分野において、いずれも顕著な成果を収めている第一人者であり、各シンポジストからの話題提供を通じて、幅広い視点から本研究領域についての議論を深め、新たな可能性への発展へとつながる契機としたい。